

『住みよい町、きめ細やかな福祉のある町を目指して』

平成十三年三月八日に行われた第一回定例議会にて報告された町長の町政施政方針を全文報告いたします。

平成十三年小須戸町議会第一回定例議会にあたり十三年度の施政方針を申し上げます。

過ぎし二十世紀は激動、激変、そして発展の時期時代を経て終わりましたが、その世紀の終盤に於いても地球各地に地震ほか自然災害が頻発いたしました。

また、人間社会では、政治、経済などに高度なグローバル化、国際化が進むなかで、未だに国と国との戦火や国内抗争による流血事件が各所に発生していることは誠に心痛の極みであります。

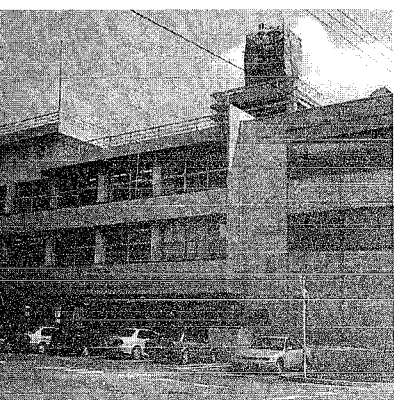
一方、我が国に於いては地震や火山の噴火なども活発化しております。今もって東京都三宅島の非難住民の現状を、報道により視聴するとき言葉で云い得ぬ胸の痛みを感じます。一刻も早く、愛する故郷へ帰還されることを祈るのみであります。また、情報化時代とは申せ、全国津々浦々かもたらされ

る凶悪なる犯罪や、幼児、児童への虐待、肉親間の殺りく、傷害事件など、余りにも多くの想像を絶する事犯が報じられ、また、複雑化が進む社会の構造のなかで、多くのトラブルとなる問題が惹起している現実があります。

今日、ここに迎えた二十一世紀には、自然災害が起らないことと、国際間の平安、人間社会の平穏を、二十一世紀頭初の、小須戸町議会本会議場に於いて、声を大にして念願するものであります。

当町では昨年十一月九日に町政施行百十周年の記念として「まごころの町」宣言を行いました。

この町を、この地域を、人間味のある、優しい、真に住み良い町として、育み、築きあげていきたいと願ったものであります。



役場庁舎



110周年記念『まごころの町宣言』

新世紀に入った今日も行財政は国、県、市町村共々一段と厳しさを増中し、正に変革の時代に突入しております。国が抱えている、国民一人当たり六百万円弱の負債額の状況は、前途に暗雲が立ち込めた様相を呈しております。ちなみに当町における負債（借金）残高は普通会計で町民一人当たり二十八万一千円（平成十一年度末）となっており、対前年度比で約一万円の減であり、近隣自治体に比してその額は最も低いものではあります。現実の行財政運営に於いてまことに厳しいものがあります。

このような状況下においても、平成十三年度の各施策、事業については、

長期総合計画に基づき、また改善を図りながら行政運営をしてまいれる所存であります。そして町民の皆様から多くのご要望を頂いている中で、必然性、急務性などを判断しながら出来ることから実施してまいりたいと思っております。これまでも行財政に係る改革を行ってまいりましたが、さらに経常経費等の節減に努めながら、行政サービス推進の為に努力してまいれる所存でありますので、議員各位のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。次第であります。

平成十三年度 当初予算について

さて、平成十三年度の当初予算について申し上げます。

一般会計につきましては三十八億八百万円となり、対前年度比より一億三千四百万円の増であります。その主たる要因は、各特別会計への繰出金及び道路整備事業の増加によるものであります。そのほかでは一例ではあります。すが、町民皆様からご要望の強かった中央公民館にエレベーターの設置を予算付けしております。

次に特別会計について申し上げます。

まず、国民健康保険会計は前年度比約十八・四％増の八億九千七百七十八万五千円といたしました。今年度も一般会計より繰入れを行うこととし、その金額は六千五百万円程度となっております。依然として厳しい運営内容ではあります。税の引き上げを極力押さえながら運営努力をまいります。

次に老人保健特別会計ですが、前年度比八・九％増の十二億六千四百三

十二万六千円となりました。介護保険事業の実施により医療費の軽減が期待されたところであり、逆に医療諸費は約八・九％の伸び率を計上しなければならぬ状況となっております。

次に介護保険会計では前年度比約十三・二％増の五億二千六百八十三万円を計上いたしました。間もなく一年を迎える当事業も、この間、国の施策の変更や補助金等の見直しがあり、実務現場に於いては、かなりの苦労や戸惑いがあります。住民福祉のためでありますので精一杯の努力をまいります。

次に事業会計であります。

まず、水道会計では、前年度に料金の改定等で町民各位のご理解、ご協力を頂きまして、ようやく黒字予算の計上が出来ようになりました。このことに対し深く感謝申し上げます。次第であります。

現在、整備を進めておりますところの新浄水場施設も、予定通り十二年度中に完成する見通しとなり、新年度からは、真の安心、安全な給水が行われることとなりました。尚、十三年度事業会計の収益的、収入、支出予算は前



新浄水場

年度比、収入では、約〇・八％増の二億九千八百六十九万五千円を見込み、支出では約十四・七％増の二億七千九百五十四万一千円を計上したところであります。

次に国、県にかかる事業について申し上げます。

国、県に係る 事業について

まず、国道四〇三号線バイパスに関してであります。十二年度事業として県道白根・安田線から町道、鎌倉・横川一号线までの間一、五〇〇Mの丈量については、その測量設計に手問どってまいりましたが予定通り完了いたします。平成十三年度ではいよいよ用地の買収に着手できる見込みであります。買収の問題もありませんので、目下全力投球で、関係各機関に強い要望活動を行って来るところであります。今後も引き続き、努力をまいります。

下水道事業会計につき

ましては、前年度比約三・三％増の九億三千三百五十六万三千円を計上し、引き続き計画に基づき事業の推進を図ってまいります。



国道403号バイパス